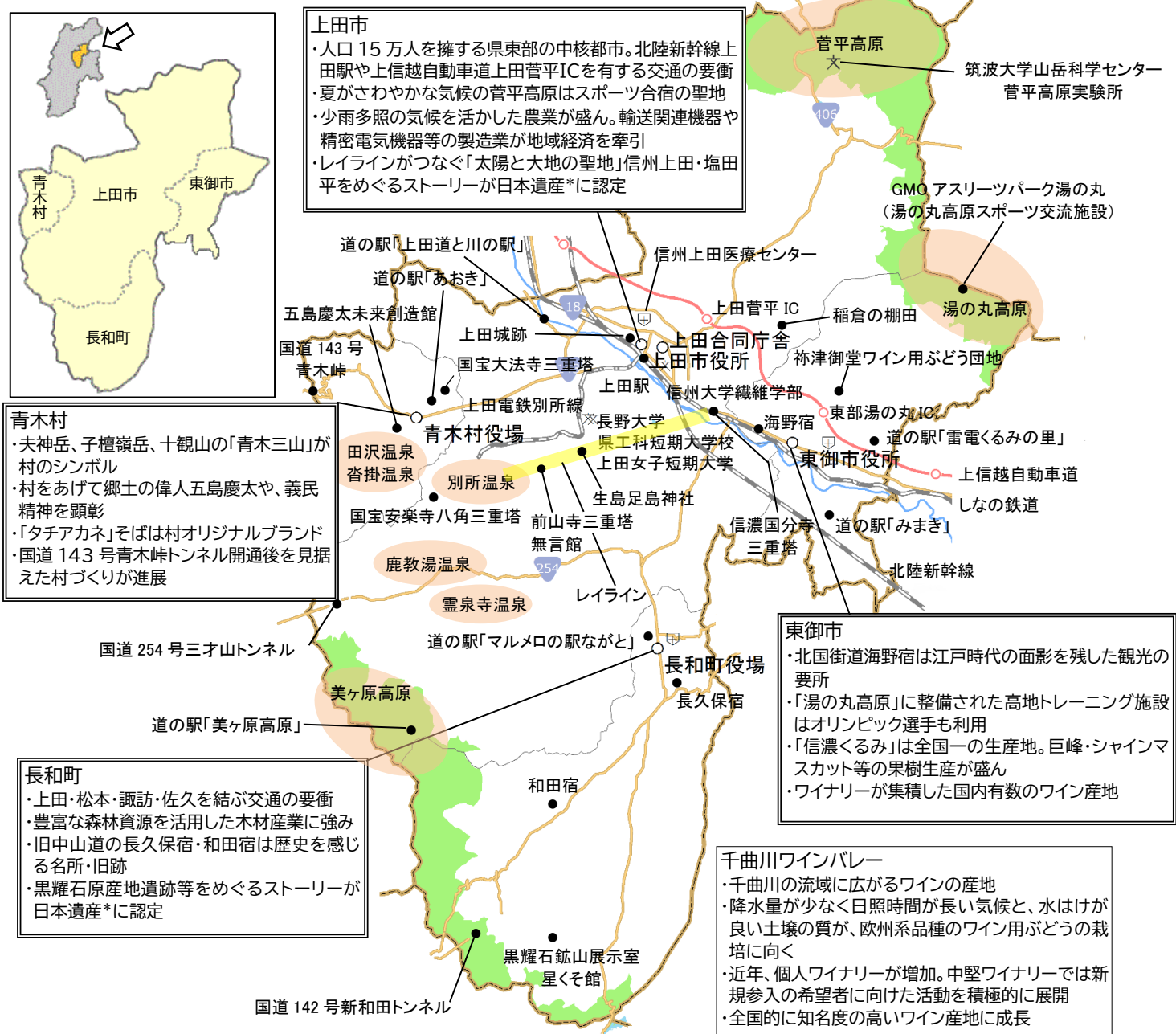


## 上田地域（上田市、東御市、長和町、青木村）

### 上田地域の特性

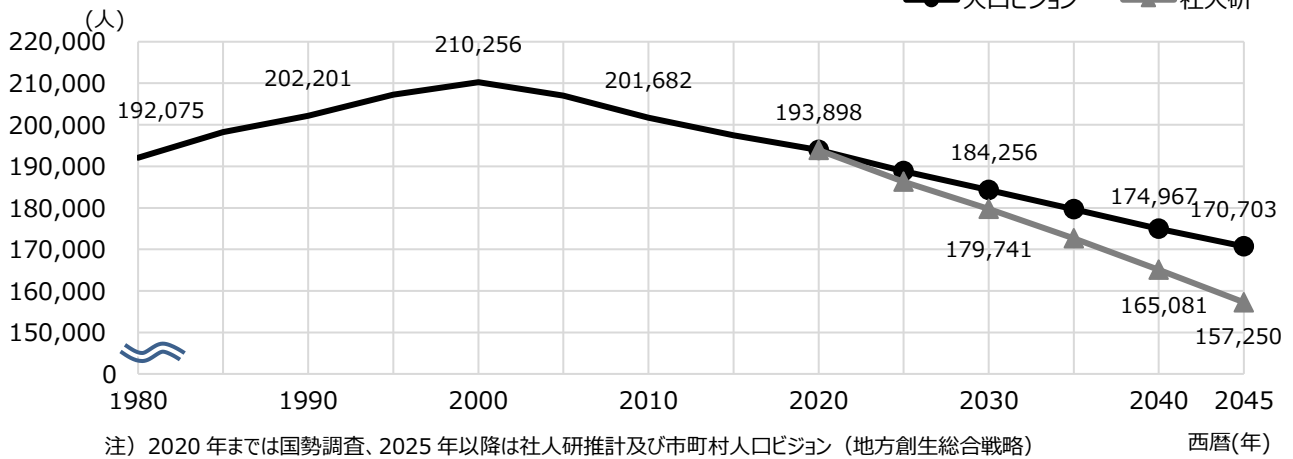
- ・スポーツ合宿の菅平高原・湯の丸高原、上田城跡、海野宿などの歴史的文化財、別所温泉等の魅力的な観光資源がコンパクトに集積しています。
- ・晴天率の高い気候条件と標高差を生かした高原野菜やぶどうの産地であり、カラマツを主体とした林業・木材産業も活発なほか、近年はワイナリーの集積が進み、良質なワイン産地として知名度が高まっています。
- ・製造業が多く集積し、地域経済を牽引しており、地元の高等教育機関と浅間リサーチエクステンションセンター（AREC）等による産学官の連携も進んでいます。
- ・高速交通網により首都圏や北陸方面へのアクセスが良く、長野、松本、諏訪、佐久を結ぶ交通の要衝であり、他地域との更なる人流・物流の活性化につながる広域的な道路網などの整備が進んでいます。

### 【管内の概況】

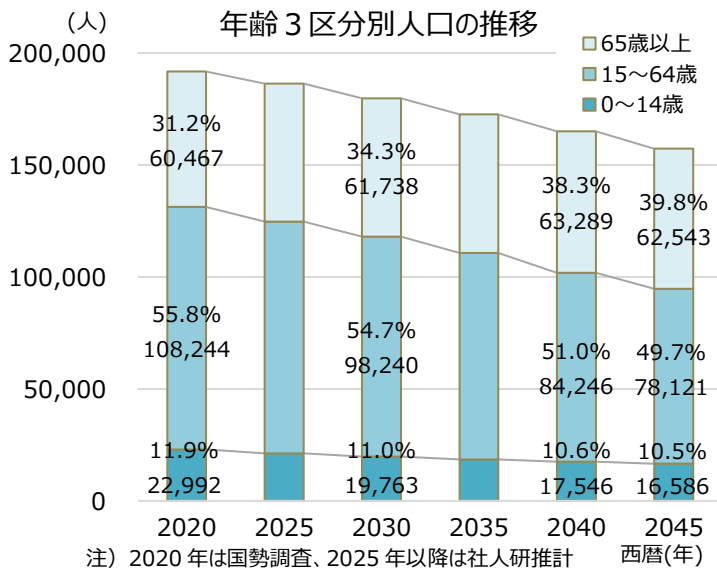


## 【人口】

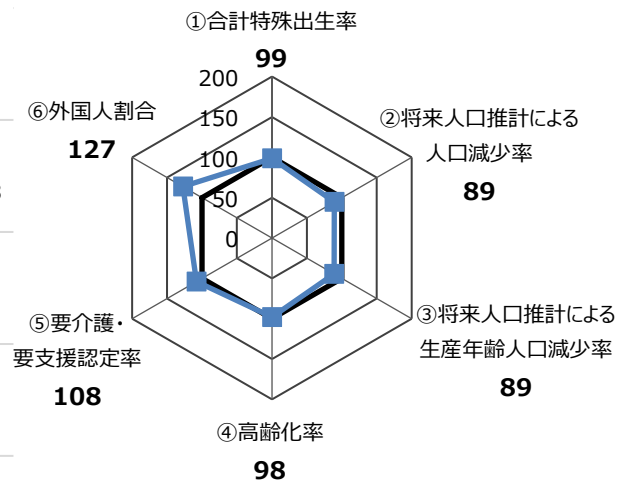
### 人口の推移



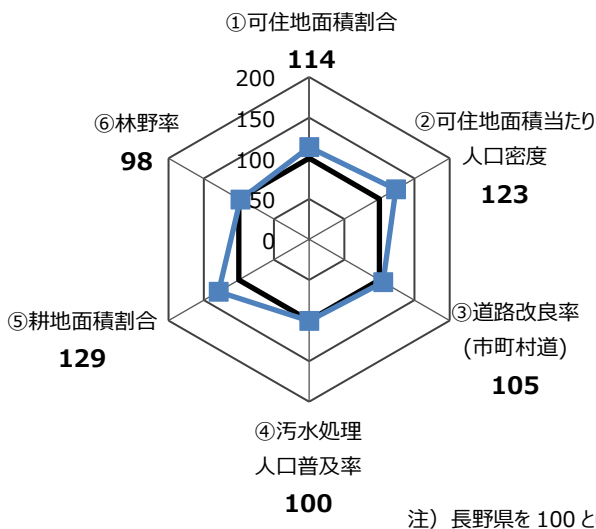
### 年齢3区分別人口の推移



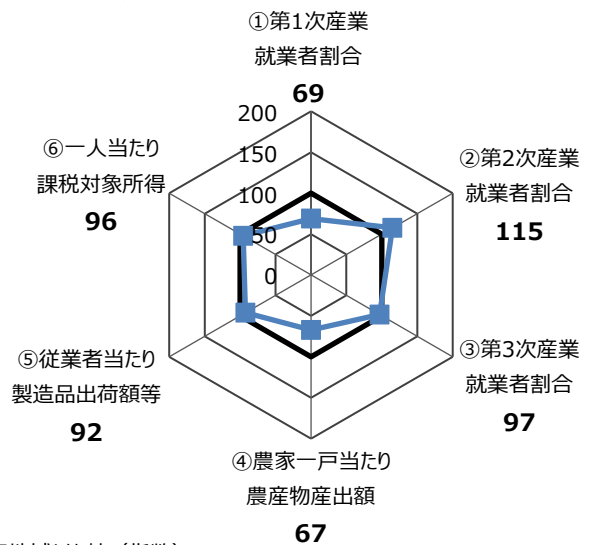
### 【地域の特徴(人口)】



### 【地域の特徴(地勢)】



### 【地域の特徴(産業)】



- ・人口は2000年を境に減少が進んでいますが、市町村では地方創生の取組を通じ、2045年時点で地域の人口を約17万人に維持することを目標にしています。
- ・可住地面積割合や道路改良率などが県平均を上回り、地勢的に恵まれた地域となっています。
- ・電気機械器具や輸送用機械器具製造業が多く集積し、第2次産業は地域を牽引する産業として重要な位置を占めており、就業者割合も県平均を上回っています。

多彩な魅力で人を惹きつけ、暮らしやすさを実感し、脱炭素社会をリードする上田地域

- ・多彩な観光資源と歴史や文化に愛着と魅力を感じ、国内外から多くの人々が訪れ、交流と賑わいが生み出されています。
- ・地域に根差した製造業やワイン産業など、地域ならではの産業が集積し、キラリと光る企業が若者や女性などを惹きつけ、多様な働く場所にあふれています。
- ・住む人が住み慣れた地に誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けています。また、この地域の暮らしに多くの人々が憧れ、移住する人が増えています。
- ・気候条件を生かした多様な再生可能エネルギーの利活用が広まり、脱炭素社会の実現に向け、地域が一体となって取り組んでいます。

地域重点政策



1 上田地域の魅力の向上と発信による人を惹きつける観光地域づくり

地域の歴史や自然環境から生まれた多くの観光資源やスポーツ合宿の適地としての特色を効果的に発信し、コロナ禍で打撃を受けた観光需要の回復を図るとともに、観光客に選ばれる、魅力ある観光地域づくりを進めます。

【現状と課題】

- ・国宝の安楽寺八角三重塔や大法寺三重塔、別所温泉をはじめとする温泉地、上田城下町・中山道・北国街道の旧宿場町などの歴史的な街並み、塩田平に点在するため池群の美しい風景やワイナリーなど、多くの観光資源を有しています。
- ・文化・伝統を伝えるストーリーとして、上田市ではレイライン（夏至の朝、太陽が日の出の際に地上につくる光の線）がつなぐ「太陽と大地の聖地」信州上田・塩田平の歴史・文化財が、長和町では黒耀石原産地遺跡などが日本遺産\*に認定されています。
- ・コロナ禍で落ち込んだ観光消費を回復するために、地域が一体となり、個々の観光資源の特長・強み・魅力などを最大限生かしていくことが必要です。
- ・上田地域を訪れる観光客は全県と比較すると、県内客や日帰り客が多い傾向にあることから、宿泊地として魅力ある観光地域づくりを進めていくことが必要です。



日本遺産の構成文化財「生島足島神社」(上田市)



上田城跡(上田市)



旧北国街道海野宿(東御市)

【取組内容】

- 地域と一体となった観光需要の回復
  - ・スポーツ合宿の聖地である菅平高原の施設や、湯の丸高原に整備されたアスリート志向の高地トレーニング施設を活用した観光地域づくりの取組を市や地元観光協会と連携して推進
  - ・地域の観光資源である温泉地や高原、ワイン、サイクリングなどを活用した広域的な観光誘客の取組を、上小地域観光戦略会議を活用し官民一体となって推進



- ・日本遺産\*である信州上田・塩田平の歴史・文化財と長和町の黒耀石原産地遺跡、上田市の稲倉の棚田や千曲川ワインバレー等の農業と連携した観光コンテンツづくりなど、地域の資源を活用した取組を支援
- ・インバウンド\*の需要を取り込むため、地元観光協会などが行うインバウンド\*向け誘客の取組を支援



スポーツ合宿(ラグビー:菅平高原)



高地トレーニング施設全景(湯の丸高原)

●観光地の魅力を高めるインフラの整備

- ・菅平高原で安心してトレーニングができるランニングコースの設置や湯の丸高原へのアクセス道路の拡幅などにより、スポーツ合宿地の魅力を高めるインフラ整備を推進
- ・公共交通を利用する観光客が目的地まで円滑に移動できる環境の整備を促進



ランニングコースとして使用する歩道の整備(菅平高原)



湯の丸高原へのアクセス道路の整備(東御市)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査(観光部)	409万人 (2021年)	725万人 (2027年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [コロナ前水準(2019年)まで回復する目標を設定]
観光地消費額 観光地利用者統計調査(観光部)	71億円 (2021年)	147億円 (2027年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [コロナ前水準(2019年)まで回復する目標を設定]



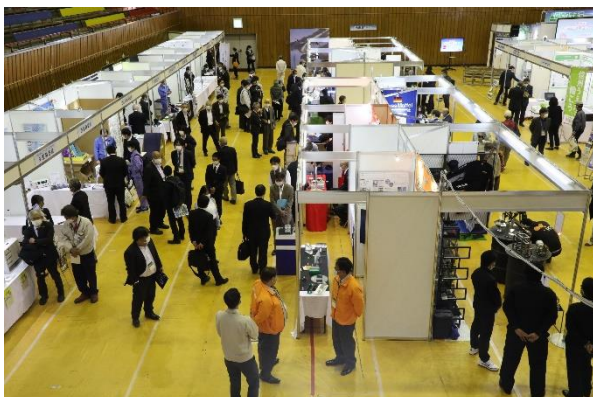
## 2 地域を支える産業のグレードアップ

これまで地域を支えてきた産業の成長分野への振興や、スタートアップ\*など新産業の創出のほか、ワイン産業など地域ならではの産業を、圏域を超えた枠組みを活用して、地域に根付く基幹産業として育成します。また、地域産業を支える産業人材の育成・確保等に取り組みます。

### 【現状と課題】

- ・電気機械器具製造業や輸送用機械器具製造業関連企業が多く集積しており、製造業従事者の割合は県内3位、管内売上額の製造業比率は県内2位を占めています※。
- ・ワイン用ぶどう栽培面積は順調に拡大しており、今後は生産量の増大が見込まれます。また、ワイナリー数も年々増加しており、県内でもトップクラスの集積地（15か所）となっています。
- ・米穀・野菜・果実・花き・きのこ・畜産など多品目が生産されているほか、林業・木材産業が活発で、集成材を含む県産カラマツ建築用材出荷量の概ね半数を上田地域が占めています。
- ・DX\*・GX\*へのシフトや、スタートアップ\*の創出と育成、地域経済を担う産業人材の育成・確保等、持続可能な産業の実現が求められています。
- ・農林業分野では担い手の高齢化が進むとともに、人材の確保が難しくなっています。
- ・ワイナリーの集積が進むワイン産業では、ワインを活かした観光・交流施策の一層の推進が求められています。

※出典：令和3年経済センサス



地域産業を支える取組・上田地域産業展(上田市)



ワイン用ぶどう栽培者向け研修(東御市:祢津御堂)

### 【取組内容】

#### ●持続可能な産業の実現に向けた取組

- ・農業・医療等の成長期待分野への参入を促すための産学マッチング事業や新たな開発プロジェクトの推進、産業人材を育成・確保する東信州次世代産業振興協議会の取組を支援
- ・上記の協議会で策定した東信州次世代イノベーションプランに基づく次世代アグリビジネス産業の振興に向けた取組を支援
- ・農業の担い手確保と農地集積を進めるほか、スマート農業\*の導入や新品種・新技術の普及による気候変動に強い産地づくりや、農産物直売所の機能・魅力アップによる農産物の地産地消\*を推進
- ・林業の担い手確保を進めるほか、県産材の利用促進に向けた取組の支援やS G E C認証森林\*のPR、持続的な森林経営を目指し、市町村・企業等と連携して調査研究に取り組む「にぎやかな森プロジェクト」を推進
- ・5つの高等教育機関（信州大学繊維学部、長野大学、工科短期大学校、上田女子短期大学、筑波大学山岳科学センター）の連携を促し、産業人材の育成・確保等の取組を支援

#### ●世界基準を見据えたワイン産地づくり

- ・ワイン用ぶどう生産者の育成・確保や栽培技術の向上及び生産者間の情報交換に取り組み、ワイン



用ぶどうの安定生産と高品質化を推進

- ・千曲川ワインバレー特区連絡協議会との連携により、ワイン文化の創出やブランド化による消費拡大に向けた情報発信とともに、ワインを活かした観光・交流施策を推進



機械によるワイン用ぶどう剪定作業の実演(東御市)



「にぎやかな森プロジェクト」実施協定締結式(上田市)

### 【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
製造品出荷額等 経済センサス-活動調査(総務省・ 経済産業省)	6,092億円 (2020年)	2020年比 +2.5% (2025年)	製造品出荷額、加工賃収入額等の合計 [経済センサス2015~2020年の年平均成長率0.5%を基に設定]
醸造用ぶどう収穫量 特産果樹生産動態等調査(農林水産 省)	281t (2021年度)	1,200t (2027年度)	果樹の栽培面積や用途別仕向け量に係る市町村別の毎年調査 [県食と農業農村振興計画の目標値にあわせて設定]



## 3 穏やかに暮らし続けられる地域づくり

住み慣れた地で安心して暮らし続けられるよう、道路網や医療・福祉、地域公共交通など地域の生活基盤の充実を図るとともに、県外からの移住を促進します。

### 【現状と課題】

- ・少子高齢化や都市圏への転出等に伴い、地域人口の減少は続いていますが、北陸新幹線や上信越自動車道など首都圏などとのアクセスの良さや、地方回帰の流れ等で移住者数は近年増加傾向にあります。
- ・人流・物流の拡大につながる広域的な道路網の整備や、日常生活において必要な地域公共交通の充実が求められています。
- ・大規模な自然災害の経験を踏まえ、災害に強いインフラ整備や地域における防災・減災の取組が求められています。
- ・安心して暮らしていくために必要な医療・福祉の充実や、健康づくりの推進が求められています。
- ・上田地域に住む魅力の効果的な発信や、移住を希望する人のニーズに応じた移住促進の取組が求められています。

### 【取組内容】

- 道路網の整備、地域公共交通の充実、防災・減災の推進
  - ・中部横断自動車道全線開通や上信自動車道整備に向け市町村と連携して取り組むとともに、国道143

- 号バイパス（青木峠トンネル）や道の駅の整備等により、他圏域との人流・物流の活性化を推進
- ・高齢者の通院・買い物や高校生の通学などに欠かせない地域公共交通の充実に向け、上田地域定住自立圏\*の構成市町村や交通事業者と連携した取組を推進
- ・土砂災害警戒区域の防災施設や河川の護岸などの計画的な整備を推進
- ・地域住民が主体的に実施する防災訓練など、地域共通の課題に取り組む住民組織の活動を支援

●医療・福祉の充実、健康づくりの推進、子育て・子育て支援

- ・市町村や医療・保健・福祉関係者と連携し、医師や看護師等の医療人材の確保、救急医療体制の整備、福祉サービス向上の支援により医療・福祉を充実
- ・健康寿命の延伸に向け、関係機関・団体等と連携し、市町村が行うデータヘルスに基づいた保健指導等への支援や運動機能向上のための講座開催などにより、健康づくりに対する意識を醸成し、住民の主体的な取組を促進
- ・市町村等と連携し、子どもを産み、育てやすい環境の整備を推進

●移住の促進、つながり人口\*の創出・拡大

- ・二地域居住\*・テレワーク・子育て環境など多様化する移住を希望する人のニーズを把握し、上田地域定住自立圏\*や東信地域の構成市町村と連携し、移住者視点で上田地域に住む魅力の情報発信を充実
- ・移住につながる「つながり人口\*」の創出・拡大に取り組む市町村や住民団体等の活動を支援



住民の暮らしを守る砂防施設(上田市)



「つながり人口」の受入拠点となるクラインガルテン(上田市)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	230人 (2021年度)	340人 (2027年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者数 [県本体計画の平均伸び率を参考に現状値を上回る目標値を設定]



4 持続可能な脱炭素社会の地域づくり

県内有数の日照率の高さを活かした屋根太陽光をはじめ、多様な再生可能エネルギーが普及・拡大する先進的な地域を目指し、脱炭素社会への変革に結びつく取組を市町村や地域で活動する団体と連携して推進します。

【現状と課題】

- ・屋根太陽光、農業用ため池の水面設置の太陽光発電、未利用木材使用のバイオマス発電\*、菅平ダムに建設中の農業用水を利用した小水力発電など、地域に多様な再生可能エネルギーがあります。
- ・木材は森林が吸収した炭素を大気中に放出することなく貯蔵していることから、木材の利用は地球



温暖化防止につながる事が近年注目されています。

- ・ 二酸化炭素の吸収力が低下した高齢期の森林の若返りが求められています。
- ・ 地域全体で脱炭素社会を実現するため、地域で暮らす一人ひとりが自分ごととしてゼロカーボンに取り組む行動変容が求められています。

【取組内容】

● 持続可能な脱炭素社会に向けた取組の推進

- ・ 屋根太陽光や、地域の未利用木材等を使用したバイオマス発電\*など、多様な再生可能エネルギーの普及・拡大を促進
- ・ 製造業をはじめ、農林業においても省エネ性能の高い設備や機器の導入を支援
- ・ 地域産木材の積極的な利用と主伐・再造林\*による次世代森林の育成を促進
- ・ 自家用車に頼らないコンパクトなまちづくりを推進するため、新たなサービスの導入による公共交通の利便性向上や、シェアサイクルなど新たな交通手段を導入する市町村などの取組を支援
- ・ 市町村や関係団体と連携し、信州環境カレッジ\*やゼロカーボン社会共創プラットフォーム（くらしふと信州）\*を活用してゼロカーボンの学びを促進することにより、自分ごととしてゼロカーボンに取り組む意識を醸成



農業用ため池を活用した太陽光発電施設(上田市)



次世代森林を育成する植林活動(上田市)



導入に向け実証実験が進むシェアサイクル(上田市)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
住宅太陽光発電設置件数（累計） 再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法情報公表用ウェブサイト（経済産業省）	5,755 件 (2021 年度)	10,300 件 (2027 年度)	10kW 未満の太陽光発電設備設置件数 〔県ゼロカーボン戦略の目標値にあわせて設定〕
民有林における造林面積 (林務部調)	34.3ha (2021 年度)	60ha (2027 年度)	民有林において伐採地等に植栽をした面積 〔県造林目標面積を基に設定〕